

秋雑草防除、本格シーズン

猛暑から一転、急に秋らしくなってきました。今は秋雑草防除の真っ最中でしょうか。今回は先月に引き続き広葉雑草特集、非常に馴染みの深い2種を取り上げます。あまりにもありふれた雑草ですが、念のため再確認しておきましょう。

オオバコ（オオバコ科、多年草）

人が踏みつける固い土でも平気で生育する植物の代表格で、芝生地や公園などでは特に目立ち、さらに酸性土壌を好むので全国でも最もありふれた雑草のひとつです。オオバコの種子はぬれると粘る性質があり、これが人の靴の裏について広がります。言い換えればオオバコが生えている場所は人が歩いたことのある証で、昔山で道に迷った人がオオバコを頼りに道を探し当てたという話もあります。

ほとんど通年生育し、幼苗は秋から春にかけて伸びます。葉は全て根元から出て、卵形で長い柄があり、葉脈が数本ほぼ平行に走っています。4～6月に株元から数本の丈夫な花茎を伸ばし、先に穂状の白か薄紫色の小さな花を多数つけます。根茎は太く短く、極めて強い再生力があります。

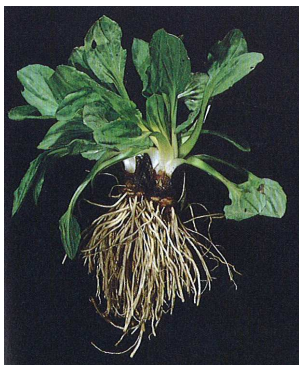
オオバコは在来種ですが、よく似た種であるヘラオオバコは帰化植物（外来種）です。



↑オオバコ（開花時）「新・校庭の雑草」より

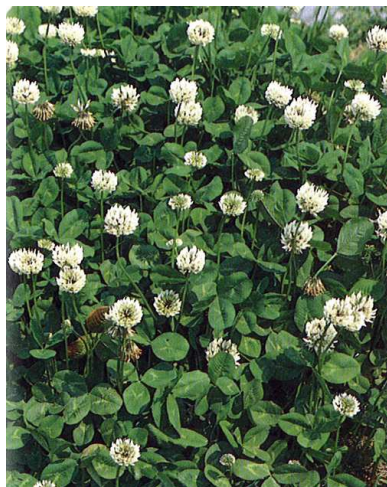


←（左）オオバコのロゼット 同



←（右）オオバコの地下部。太く、地下茎から根へと移行する。同

シロツメクサ（マメ科、多年草）



↑シロツメクサ（開花時）「新・校庭の雑草」より

江戸後期にオランダから贈られたガラス器の周りにこの草が詰めてあったことから「白詰草」と名付けられたようです（英名：White clover）。クローバー、オランダツメクサ、ミツバ、ナツメクサなど多くの別名がある通り、空き地や田畑まわり、公園などに多く生育する最も身近な雑草のひとつでしょう。明治以後牧草として輸入し栽培したものが逃げ出し広まったようです。現在は牧草の他にも法面の浸食防止や校庭など緑化目的で種子が播かれることもあります。

茎が根際から多くの枝を分け、地表を這って節々から根をおろします。草丈は15～20cm。花期は4～7月で、長い柄を立てて白い球形の花序をつけます。発芽期は3～5月ですが、一部は秋にも発生します。

多年草で、暖地では冬も地上部が残ります。目立つ冬場に茎葉処理剤で防除する方法もあります。

→（左）シロツメクサの幼苗。ちなみにクローバーの三つ葉の意味は希望・信仰・愛。四つ葉には幸運が加わる「ユニカス製品案内」より



→（右）冬季に芝生地に繁茂する様子「クサレス雑草ハンドブック」より



製品紹介

サーベルDF

広葉雑草に微量で安定した効果



- 有効成分：メスフロロンメチル 60.0%
- 毒性：普通物
- 魚毒性：A類
- 原体メーカー：デュポン
- 包装：10g/袋、10袋入り/ケース

- 平米当たり0.001～0.01gと極めて微量で安定した効果を発揮する茎葉処理型除草剤です。
- タンポポ、オオバコ、ヒメスイバなどの多年生雑草を含む広葉雑草に効果があります。
- 多年生広葉雑草に対しては秋冬期(10～2月)の処理で最も高い効果が得られます。
- 除草効果の発現は緩慢で、雑草枯死まで約20～40日を要します。
- イネ科雑草には効果が劣ります。
- 芝の萌芽期や生育が劣る場合には生育抑制などの薬害が生じることがあるので使用できません。

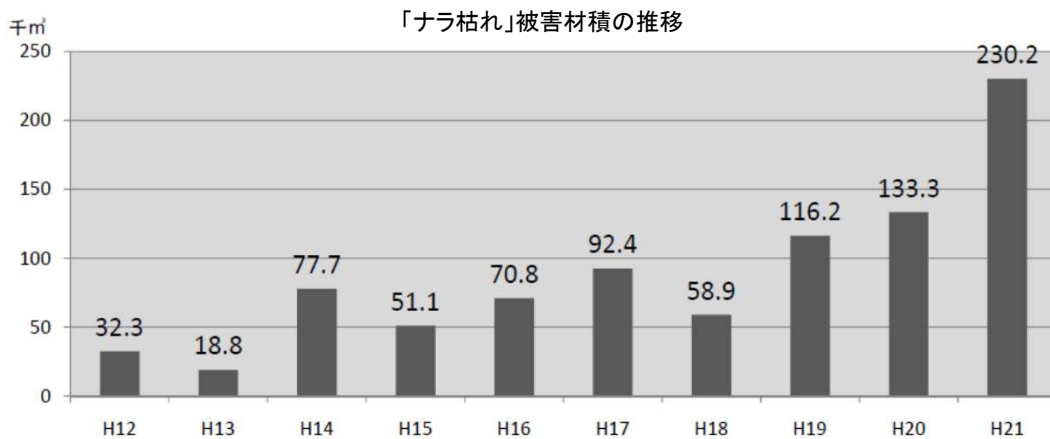
| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 薬量/10a | 希釈水量/10a |
|-------------------|--------------|-------------------|--------|----------|
| 日本芝 | 一年生及び多年生広葉雑草 | 秋～冬期(雑草発生始期～生育初期) | 2～4g | 150～200L |
| 西洋芝(ペレニアルライグラス) | | 秋～冬期(雑草発生始期) | 1～2g | 200L |
| 西洋芝(ケンタッキーブルーグラス) | | 雑草生育初期 | 5～10g | 100～150L |
| 樹木等(公園、駐車場、のり面等) | | | | |

MONTHLY TOPICS

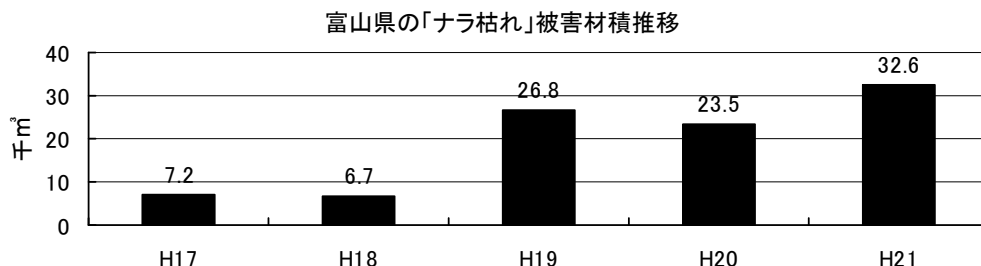
「ナラ枯れ」被害の現状

林野庁が平成22年8月31日付で「平成21年度 森林病虫害被害量実績」を発表しました。去年までは松くい虫被害についてのみでしたが、今年度からナラ枯れ被害についても新たに追加して発表されるようになりました。

ナラ枯れ被害は、カシノナガキクイムシがナラ・カシ類の幹に穴をあけて穿入し、体に付着した病原菌(ナラ菌)を多量に樹体内に持ち込むことにより発生する樹木の伝染病によるものです。発表されたナラ枯れ被害の材積量は約23万立方メートルで、松くい虫被害量の約59万立方メートル(平成21年度)に比べるとまだ約3分の1ほどですが、下図のようにここ数年(特に平成21年度)で急速に被害が広がっています。私有林での被害がほとんどのようです。



ナラ枯れ被害を都道府県別にみると、最多が山形県の4万6千立方メートル、次いで愛知県、新潟県、富山県、京都府と続き、この5府県で全体の被害量の約7割を占めています。うち山形県と愛知県は平成21年度に急に増加しました。新潟県は平成17年度には全国の被害量の約4割を占めていましたが、一時減少し、近年再び増加しています。富山県は平成19年度から大きく広がっています。



林野庁「平成21年度 森林病虫害被害量実績」について より <http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hogo/100831.html>

取扱い・お問合せは—

緑を育み、未来へつなぐ



株式会社 サカエグリーン

〒930-0171 富山県富山市野々上150番地
TEL:076-434-0036 FAX:076-434-4968